

### 3 平均賃金

#### (1) 全常用労働者の平均賃金（集計表 第3表-①）

2019年7月の全常用労働者（役付者を含む。）の平均賃金は、所定時間内賃金が346,055円、所定時間外賃金が36,611円となり、合計で382,666円（平均年齢41.7歳、平均勤続年数10.6年）であった。労働組合の有無別にみると、労働組合の「あり」と回答した企業は「なし」と回答した企業に比べ、所定時間内賃金で12,276円（3.4%）高くなっている。企業規模別では「50～99人」の所定時間内賃金が最も高く、所定時間外賃金は規模が大きくなるにつれて高くなっている。

また、2018年の全常用労働者の年間給与支払額（所定時間外賃金、賞与等を含む。）の平均額は5,399,265円であった。

<図表3-1>全常用労働者の平均賃金

（単位：歳、年、円）

	平均年齢	平均勤続年数	2019年7月1か月の平均賃金			2018年 年間給与 支払額
			所定時間内 賃金	うち通勤手当	所定時間外 賃金	
労組あり	44.3	12.7	356,046	11,406	38,917	5,567,029
労組なし	41.2	10.3	343,770	12,453	36,107	5,352,777
10～49人	42.9	10.6	334,004	12,120	33,047	5,066,665
50～99人	41.6	10.8	353,915	12,772	36,675	5,386,491
100～299人	40.8	10.5	351,598	12,142	39,448	5,720,577

前回調査結果と比較すると、所定時間内賃金は2,251円（0.6%）減少し、所定時間外賃金は862円（2.4%）増加した。また、2018年の年間給与支払額は2017年より58,145円（1.1%）上回った。

<図表3-2>平均賃金の推移

（単位：円、%）

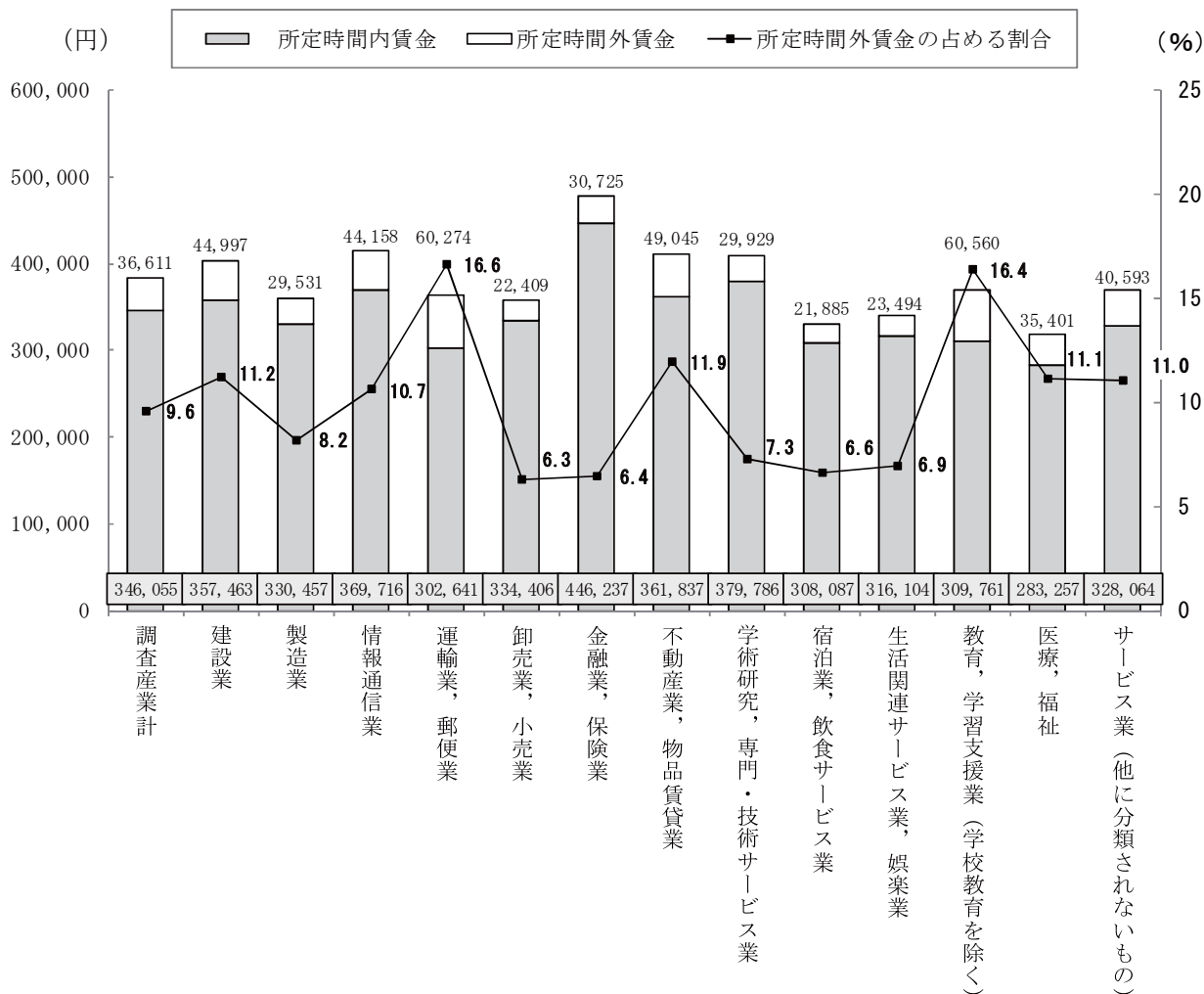
調査年(平成)	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R元年
所定時間内賃金	345,716	345,679	343,136	334,535	353,431	346,678	348,159	351,957	348,306	346,055
対前年比	3.1	△ 0.0	△ 0.7	△ 2.5	5.6	△ 1.9	0.4	1.1	△ 1.0	△ 0.6
所定時間外賃金	25,720	25,455	30,237	25,457	32,602	32,752	36,555	34,617	35,749	36,611
対前年比	4.3	△ 1.0	18.8	△ 15.8	28.1	0.5	11.6	△ 5.3	3.3	2.4
賃金計	371,436	371,134	373,373	359,992	386,033	379,430	384,714	386,574	384,055	382,666
対前年比	3.2	△ 0.1	0.6	△ 3.6	7.2	△ 1.7	1.4	0.5	△ 0.7	△ 0.4
年間給与支払額 (源泉徴収票の支払金額)	5,219,416	5,245,378	4,994,493	5,059,193	5,244,997	5,355,812	5,475,097	5,341,120	5,399,265	-
対前年比	0.6	0.5	△ 4.8	1.3	3.7	2.1	2.2	△ 2.4	1.1	-

(2) 産業別平均賃金（集計表 第3表-①）

所定時間内賃金（通勤手当含む。）では「金融業、保険業」が最も高く446,237円、次いで「学術研究、専門・技術サービス業」379,786円、「情報通信業」369,716円の順となっている。所定時間内賃金が最も低い産業は「医療、福祉」で283,257円であった。

所定時間外賃金の高い産業をみると、「教育、学習支援業（学校教育を除く）」60,560円、「運輸業、郵便業」60,274円、「不動産業、物品賃貸業」49,045円の順になっており、賃金総額における所定時間外賃金の占める割合は「運輸業、郵便業」が16.6%と最も高くなっている。

<図表3-3>平均賃金の産業別比較



(3) 男女別平均賃金 (集計表 第3表-③)

所定時間内賃金では男性 372,799 円 (平均年齢 43.1 歳、平均勤続年数 11.6 年)、女性 288,145 円 (平均年齢 38.7 歳、平均勤続年数 8.5 年) であり、女性の所定時間内賃金は男性の 77.3% となっている。これを産業別にみると「運輸業, 郵便業」(90.5%) が男女間の所定時間内賃金の差が最も小さく、次いで「医療, 福祉」(88.0%) の順になっている。一方、「金融業, 保険業」(63.9%) が男女間の所定時間内賃金の差が最も大きく、次いで「学術研究, 専門・技術サービス業」(72.5%) の順になっている。

<図表 3-4> 男女別平均賃金

